

## 欠席委員意見

## 【高橋委員】

- 現在、あいちトップアスリートアカデミーの発掘・育成専門委員会の委員を務めているが、競技力の向上を目指すのであれば、競技種目を増やしていくことも検討していくべきである。
- 県民のスポーツ実施率について、計画策定時と比較して 10 ポイント程度上昇しているが、年代別にみると 70 代、60 代の割合が高い一方で 40 代は低く、世代により大きく偏りがあることに課題がある。
- 障害のある方のスポーツ実施率について、全国値と比べ大きく下回っていることに加え、「この 1 年間にスポーツは行わなかった」が 54.2%と非常に割合が高く、スポーツ・レクリエーションの実施が困難な理由について分析する必要があり、その原因に対してどのようにアプローチしていくべきかを検討すべきである。
- 次期計画は 5 年計画とのことであり、2024 年のパリオリンピック・パラリンピック（夏季）や 2026 年のミラノオリンピック・パラリンピック（冬季）、アジア競技大会・アジアパラ競技大会等を見据えた計画とするのであれば、トップアスリートの発掘・育成を通じた競技力の向上についても位置付けていくべきである。
- 策定委員会の議論については、論点を可能な限り絞った上で議論をしていくべきではないか。

## 【田中委員】

- グランパスでは「ホームタウン活動」として、県や市と連携し、様々な地域貢献活動を実施している。SDGs に向けた活動も実施しており、活動の詳細については別紙にてご紹介させていただく。
- 小中学生の体力の低下、特に体力テストにおいて全国最下位が続いていることを懸念している。その要因や、子どもの体力低下がどのような影響を及ぼすのかについて検討することは、計画策定において重要であると考えている。  
グランパスにおいては、中期計画（計画期間：2023 年から 3 年）を策定しており、その計画の中で、子どもの体力低下に対し、チームとして何か貢献できることはないかを検討しているところである。
- 人口減少や少子高齢化の進行に伴い、サポーターの母数も減少していくが、今後人口のボリュームゾーンとなる前期高齢者（65 歳～74 歳）の方に対し、

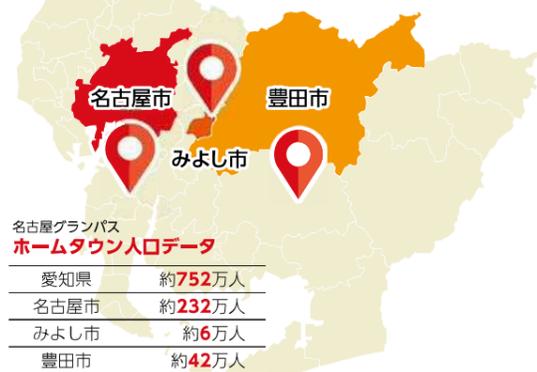
サポーターとして来場していただけるよう、働きかけをしていきたいと考えている。

また、グランパスではスポーツボランティアを募集しており、60代の方によくご参加いただいているが、スポーツボランティアは健康寿命の延伸やコミュニティづくりに大きく寄与するものと考えている。

- スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会の充実に向けては、生活にある程度ゆとりがあり、安定した社会の維持がのぞまれるが、フードドライブやパソコン・衣料品のリサイクル活動など、SDGsの実現に向けた取組を通して、それに貢献していきたいと考えている。また、スポーツや、プロチームを通じた活動により、市民の方にSDGsをより身近に感じていただけているのではないか。
- スポーツは、性別や年齢、国籍、障害の有無など、様々な垣根を越えて楽しむことができるものである。その中でも、チームとして多文化共生に特に問題意識があり、コロナ禍において外国人の孤立がより深刻化したのではないかと考えている。  
そのため、地元の外国籍の子どもをボランティアや試合観戦に招待し、選手や子ども同士との交流を促す取組を行ったが、非常に好評であり、今後も継続していきたいと考えている。共生社会の実現に向け、スポーツの活用は非常に効果的であると思う。
- 5GやIoT等の新技術を活用し、より多くの方に来場していただき、来場した方が特別な観戦体験を共有できるような仕掛けも検討してまいりたい。

## 地域の方々と一体に。ホームタウンとの取り組み

名古屋グランパスは愛知県商店街振興組合と協力し、ホームタウンである名古屋市、みよし市、豊田市を中心とする愛知県全域の皆さんの地元の街や商店街を元気にするサポートタウン事業に取り組んでいます。サポートタウンに加盟する25団体の皆さんを始めとする地域の方々と一体となり、行政と連携した事業や社会貢献活動などを積極的に実施しています。



商店街名	所在地
今池商店街連合会	名古屋市千種区
東新商店街振興組合	名古屋市中区
藤が丘中央商店街振興組合	名古屋市名東区
柳原通商店街振興組合	名古屋市北区
八事商店街振興組合	名古屋市昭和区
瑞穂通商店街振興組合	名古屋市瑞穂区
仲田本通商店街振興組合	名古屋市千種区
大須商店街連盟	名古屋市中区
日比野商店街振興組合	名古屋市熱田区
柴田商店街振興組合	名古屋市南区
名古屋駅西銀座通商店街振興組合	名古屋市中村区
堀田本町商店街振興組合	名古屋市瑞穂区
一柳通商店街振興組合	名古屋市中川区
名古屋大須東仁王門通商店街振興組合	名古屋市中区
円頓寺本町商店街振興組合	名古屋市中区
円頓寺商店街振興組合	名古屋市中区
桜山商店街	名古屋市昭和区
笠寺観音商店街振興組合	名古屋市南区
広小路名駅商店街振興組合	名古屋市中村区
広小路西通一丁目商店街振興組合	名古屋市中村区
一宮市本町商店街	愛知県一宮市
半田市商店街連合会	愛知県半田市
品野商店街振興組合	愛知県瀬戸市
刈谷市南部商業発展会	愛知県刈谷市
安城市北明治商店街振興組合	愛知県安城市

## サポートタウンとの連携事業

クラブ史上初となるルヴァンカップ決勝戦進出に向け、サポートタウンの有志7商店街の皆さんが応援ポスターを制作し、掲出しました。優勝決定後は今池商店街などで優勝報告を行いました。「鯨の大祭典」開催に合わせ、瑞穂通商店街では「48(シャチ)の大作戦」を開催しました。また、日本郵便とサポートタウンの商店街の連携によりラッピングポストを4箇所に設置しました。新たにサポートタウンに加わった 広小路名駅商店街振興組合と広小路西通一丁目商店街振興組合の協力により、名古屋駅一帯にバナーを掲出しました。

**2021年10月20日**  
ルヴァンカップ応援ポスター

**2021年11月**  
ルヴァンカップ優勝報告

**2021年8月8日**  
48(シャチ)の大作戦

**2021年8月11日**  
郵便局×グランパスポスト

**2021年10月**  
フラッグ掲出

## 行政との連携施策

### 名古屋市との連携

「鯨の大祭典」に際しては、名古屋市営交通局と「鯨の大祭典・市営交通100周年コラボTシャツ」を作成し、ホームゲーム時に名古屋市営地下鉄8駅の駅職員の方が着用しました。また、相互に緊密な連携・協力による活動を推進し、市民生活の幅広い分野における市民サービスの一層の向上、地域の活性化などに取り組むことによって相互の持続的な発展を図ることを目的として、プロスポーツチームとして初めて、名古屋市と「包括連携協定」を締結しました。これを記念し、10月29日夜に中部電力MIRAI TOWERがグランパスカラーにライトアップされました。

**2021年8月15日～9月1日**  
鯨の大祭典・市営交通100周年コラボTシャツ

**2021年10月29日**  
テレビ塔ライトアップ

### 愛知県との連携

「夏の交通安全県民運動」を実施するにあたり、歩行者とドライバーが横断時に意思疎通を図る「ハンド・アップ運動」をPRする「ハンド・アップ隊」にグランパスくんが任命されました。また、愛知県農業水産局と連携し、ホームゲーム4試合でコラボ商品の販売、リーフレット配布などをしました。

**2021年7月11日～20日**  
「ハンド・アップ隊」任命

**2021年9月10日～11月3日**  
愛知県産農林水産物PR

### 豊田市との連携

豊田市、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社との三者共働で、市内の公立小中学校10校を対象に食育講演を行い、食育に加えてSDGsの観点からも「食」の大切さを学びました。また、豊田スタジアム開場20周年の記念事業として、最寄り駅の豊田市駅前にバナーを掲出しました。

**2021年9月～**  
食育講演

**2021年**  
豊田市駅前バナー掲出

### みよし市との連携

練習場やサッカー学校の拠点であるみよし市では、SDGsコラボマスクを製作して市の職員の皆さまに着用いただきました。また、世代交流サッカー健康推進事業や三好ヶ丘駅を中心としたシティプロモーション事業として「北井山公園」に設置したトイレの壁面を装飾コラボしました。

**2021年**  
SDGsコラボマスク

**2021年**  
北井山公園グランパス装飾

## ヨロコビプロジェクト

ホームタウンの未来を担う子供たちのチャレンジ・成長・達成のサイクルを支援しようと2018年6月にスタートした「ヨロコビプロジェクト」。2021年は、「ICT社会を推進する「人」を育成する事業」の「ICT教育推進ナビゲーター」にグランパスくんが就任し、授業にも参加しました。また、オンラインや実際に学校を訪問しての交流会や特別授業、職業講話なども行い、子どもたちと繋がりました。あいさつ活動は名古屋市内の45校で実施。豊田市では12校であいさつ活動とSDGs活動を行いました。ホームタウンがさらに「ヨロコビあふれる街に」なることを目指し、今後も積極的に活動していきます。



**2021年6月30日**  
ICT教育授業

**2021年11月26日**  
丸山選手オンライン訪問

**2021年12月21日**  
植崎CSF特別授業

**2021年12月16日**  
チアグランパスNAGISA講演

**2021年**  
あいさつ活動(名古屋市)

**2021年**  
あいさつ&SDGs活動(豊田市)



## より良い世界のために——。SDGsへの取り組み

2020年から続くコロナ禍により、日常にあった満員のスタジアム、大きな歓声、興奮や感動を多くの方と共有する熱狂空間は失われてしまいました。私たちにとって、サッカーができない期間は、サッカーへの想い、クラブの存在意義など、さまざまなことを見つめ直す機会となりました。そして、サッカーは安定した社会の上でこそ成り立つのだと改めて認識しました。

今後もJリーグが成り立ち続けるように。早く満員のスタジアムを実現できるように。ホームタウンである愛知県がより良くなるように。そして持続可能でより良い世界が実現するように。そのような思いで、名古屋グランパスは2020年、SDGsにに取り組むことを宣言しました。その宣言から1年あまりが経った今、クラブがこれまでに取り組んできたSDGsの取り組みについて報告します。

名古屋グランパスはSDGsの17のゴールのうち、特に以下の4項目に力を入れて取り組んでいます。



取り組みの詳細はこちら

<https://nagoya-grampus.jp/club/sdgs/>



### 『名古屋グランパスSDGs ACADEMY』プロジェクト始動

名古屋グランパスは、ホームタウンの企業や自治体の方々とアカデミー生が、スポーツSDGsを学びながらセッションの企画・実践に取り組む『名古屋グランパスSDGs ACADEMY』をスタートさせました。8月4日のプロジェクト発表会には企業・自治体・大学関係者など119団体から126名の方が参加。11月29日にはアカデミー生と共創パートナーのメンバーでフットボールセッションを行い、簡単なトレーニングやミニゲームを実施しました。1月23日にはジョギングをしながらゴミを拾うスポーツ「プロギング」を行いました。

フットボールセッション(11月29日)



プロギング(1月23日)



### 2021年の主な取り組み実績

#### フードドライブ



家庭で食べきれず余っている食品を持ち寄り、生活に困っている個人や福祉団体へ提供する「フードドライブ活動」を実施しました。リーグ第22節川崎フロンターレ戦、第38節浦和レッズ戦では特別ブースを設置して食品を募り、選手やクラブスタッフによる寄贈分と併せて福祉団体に寄附しました。

#### パソコン・リサイクル



SDGsパートナーのリネットジャパングループ株式会社と「グランパスくんのパソコン・リサイクル2021」を展開しました。不用パソコンを宅配便で無料回収し、小型家電リサイクル法認定工場でリサイクル由来の「金」を使用した金メダルを作成。チーム得点王の稲垣祥選手に贈呈しました。

#### 衣料品回収プロジェクト



10月6日(水)から12月19日(日)にかけて、過去に販売したユニフォームやTシャツ、マフラーなど、不要になった衣料品を回収し、地球の資源へとリサイクルする活動を行いました。ファミリーの皆さんから回収した衣料品は新しいポリエステル樹脂(BRING Material™)や再生エネルギーに生まれ変わります。

#### 環境配慮型アルミカップ



豊田通商株式会社がユニバーサル製缶株式会社と共に構築した、環境配慮型アルミカップの導入・回収・再利用を循環する「水平リサイクル」の仕組みを国内プロスポーツチームで初めて導入。「鯨の大祭典2021」のホームゲームにおいて、環境配慮型アルミカップで飲料を提供しました。

#### ペットボトルキャップ回収キャンペーン



コプロ・ホールディングスのサポートの下、エコステーションなどスタジアム内の各所にペットボトルキャップの回収BOXを設置しました。皆さんから集めたペットボトルキャップは「世界の子どもにワクチンを日本委員会」を通じて、海外の子どもたちへのワクチン支援のために活用されます。

#### おにぎりアクション



おにぎりの写真をSNSに投稿し、1回につき給食5食分がアフリカ・アジアの子どもたちに寄付される「おにぎりアクション」に、トップチームの選手、アカデミーのコーチや選手、グランパスくんが参加しました。スタジアムではおにぎりアクションフォトスポットを設置し、ファミリーの皆さんにも参加を呼びかけました。